

紀要

■設立50周年記念号Ⅱ

円筒上層式土器における土偶意匠の展開と実態

—認識の更新と深化に向けた素描— 瀬口 眞司 (1)

滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉遺跡の集成

..... 小島 孝修 (20)

はじまりのモニュメント

—縄文晩期における墓配置の一事例— 松室 孝樹 (28)

上砥山遺跡出土木製品の年輪年代測定からみた出土遺構の数値年代

..... 前田 仁暉・星野 安治・内田 保之 (35)

大津市神領所在瀬田廃寺造営過程の検討

..... 小松 葉子 (42)

八幡山城跡出土軒平瓦についての一試論

—主に製作技法・製作痕跡から— 山口 誠司 (54)

滋賀県内出土の江戸時代の化粧道具

..... 田中 咲子 (63)

長浜市八雲書院資料調査報告＜瓦編1＞

..... 古山明日香・福井 知樹 (68)

茶の利用についての研究ノート(1)

..... 小竹 志織 (85)

文化財の保存と活用のこれまでとこれから

—調査法人滋賀県文化財保護協会の取り組みから— 堀 真人 (91)

35

滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉遺跡の集成

小島 孝修

目次

1. はじめに
2. 集成の方法
3. 集成した遺跡の様相
4. 滋賀県における縄文時代早期末～前期初頭
5. おわりに

— 論文要旨 —

2021年に開催された関西縄文文化研究会大会は、「本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年」をテーマとしたが、コロナ禍のためオンラインでの開催となり、各府県集成の作成・刊行が見送られた。本稿ではこれを契機として、滋賀県における当該期を含む縄文時代早期後葉～前期前葉の遺跡を集成し、その様相を概観した。集成した33遺跡の多くが琵琶湖岸に立地し、とくに3つの地域で集中して分布する状況が再確認できた。さらに、当該期の土器様相の流れを俯瞰したうえで、とくに問題となっている縄文時代早期末～前期初頭においてみられる、いわゆる一乗寺南地点下層資料に類似する資料を集成した。

——— キーワード

縄文時代早期末～前期初頭 条痕文系土器 東海条痕文系土器 栗津SZ1群土器 一乗寺南地点下層資料

1. はじめに

令和3年(2021)6月27日、「関西縄文文化研究会2021年オンライン大会 本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年」が開催された(関西縄文文化研究会2021)。タイトルにあるように、オンラインでの開催となった。同研究会が年1回開催する大会では、発表要旨集・集成資料集を刊行するのが常であったが、発表要旨集は各参加者がダウンロードする形で事前に受け取ったものの、各府県の担当者が該当資料を集成する資料集は作成されなかった。本稿は、その各府県集成の滋賀県分に代わるものとして、作成した。

関西地方における縄文時代早期末～前期初頭は地域色が強く、また早期を示す「S」と前期を示す「Z」の両方が入った土器型式名：栗津SZ群土器(泉1984)に象徴されるように、その境界をどこに置くのかを含めて、様相に不明瞭な部分が多かった。さらに、栗津SZ1群土器や一乗寺南地点下層資料(宮本1984、横澤2006、上峯・妹尾編2014)(1)といった、特徴的な土器群も存在する。

本稿は、滋賀県における当該期を含む縄文時代早期後葉～前期前葉の基礎データを提示して、情報を共有することを第一の目的とする。さらに、遺跡の分布や立地の概要について述べ、最後に滋賀県における縄文時代早期末～前期初頭の土器様相について述べる。

2. 集成の方法

(1) 集成の対象となる遺跡の抽出と時期

瀬口・小島による滋賀県における縄文時代遺跡の集成(瀬口1998・1999・2000、小島1998・1999・2001・2005)をベースに、その後の新出資料を追加して、縄文時代早期後葉～前期前葉の遺物が出土した遺跡を抽出した。本稿で主に意識するのは縄文時代早期末～前期初頭だが、時期的な線引きが難しいこともあり、より幅を広げて縄文時代早期後葉～前期前葉を集成遺跡の対象とした。

(2) 集成の対象となる土器型式

対象となる土器型式は、縄文時代早期後葉については、関東地方を分布の中心とする条痕文系土器(金子2008)や東海条痕文系土器(山下2008)、縄文条痕文系土器(岡田2008)などである。縄文時代前期前葉については、羽島下層I式併行段階や東海条痕文系土器を引き継いだ塩屋式・木島式(澁谷2008)などである。このほかに、これらに供伴する縄文時代早期末～前期初頭の栗津SZ群土器や一乗寺南地点下層類似資料などがある。なお、滋賀県における縄文時代早期～前期の土器型式編年の概要については、(福西2021)に述べられているので、ここでは省略する。

3. 集成した遺跡の様相(図1・表1)

(1) 遺跡の分布・概要などについて

集成した遺跡は図1・表1の通りで、合計33遺跡となる。

滋賀県で縄文時代の遺構・遺物が確認された遺跡約400箇所(約8.3%)である。なお、表1には引用元となる文献も示したが、刊行物に実測図や写真が掲載されていない1.葛籠尾崎湖底遺跡と2.筑摩佃遺跡については、筆者が現物を確認して得た情報を掲載した。すなわち、前者については葛籠尾崎湖底遺跡資料館(長浜市湖北町尾上)に展示されている資料の見学により、後者については米原市教育委員会が所蔵する資料の実見により、それぞれ確認した。

集成した33遺跡のほとんどは、少数の遺物が遺物包含層や後世の遺構などから出土した遺跡である。しかし、資料の点数が比較的多い遺跡や玦状耳飾・隠岐島産黒曜石などの希少遺物が供伴した遺跡、あるいは集石土坑や埋葬人骨・貝塚などの遺構が検出されている遺跡も存在する。これら比較的資料内容が良好な9遺跡は重要遺跡と判断して、図1・表1では太字で示した。

遺跡の推移という視点で述べれば、この前段階となる縄文時代早期中葉以前は遺跡の数そのものが少なく、遺構を伴い資料内容が充実している(生活痕跡を示す)となると、縄文時代草創期では東近江市永源寺町相谷熊原遺跡(滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会2014)のみであり、縄文時代早期前葉では、大津市栗津湖底遺跡(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2000)のみである。縄文時代早期中葉では見当たらない。それらと比較すると、この集成結果は、縄文時代早期後葉～前期前葉に遺跡数が格段に増えるとともに、その資料内容も充実する、すなわち定住性が高まったといえよう。

分布では、1.葛籠尾崎湖底遺跡から14.寺山遺跡まで、滋賀県の広い範囲に分布する、といえる。しかし、立地では偏りがあり、琵琶湖岸近接地(現在の湖岸から3km以内)に立地する遺跡が28箇所(84.8%)と大半である。当協会が調査機関として実施した、琵琶湖開発事業に伴う発掘調査が琵琶湖岸で行われるなど、調査頻度に影響されている可能性もあるが、居住地選択の条件として、食糧となる魚介類などの水産資源を目的としたととらえられよう。分布でさらに言うならば、3つの集中する地域を見出せる。次節でその各地域の状況について論じることとする。

(2) 集中する3つの地域

①旧入江内湖・旧松原内湖周辺地域

滋賀県東部の米原市から彦根市にかけて位置する旧入江内湖・旧松原内湖周辺には、3.筑摩佃遺跡～7.松原内湖遺跡の5遺跡が立地する。入江内湖・松原内湖は琵琶湖を代表する内湖であり、かつては狭い水路でつながっていた。佐和山丘陵や磯山丘陵といったチャートで構成される独立山塊が、矢倉川・芹川などの河川が運ぶ土砂の堆積を阻み、形成されたと考えられている。ただし、縄文時代には琵琶湖本湖との間に砂洲は発達しておらず、潟状地形(ラグーン)であった。水産資源だけでなく、独立山塊では木の実

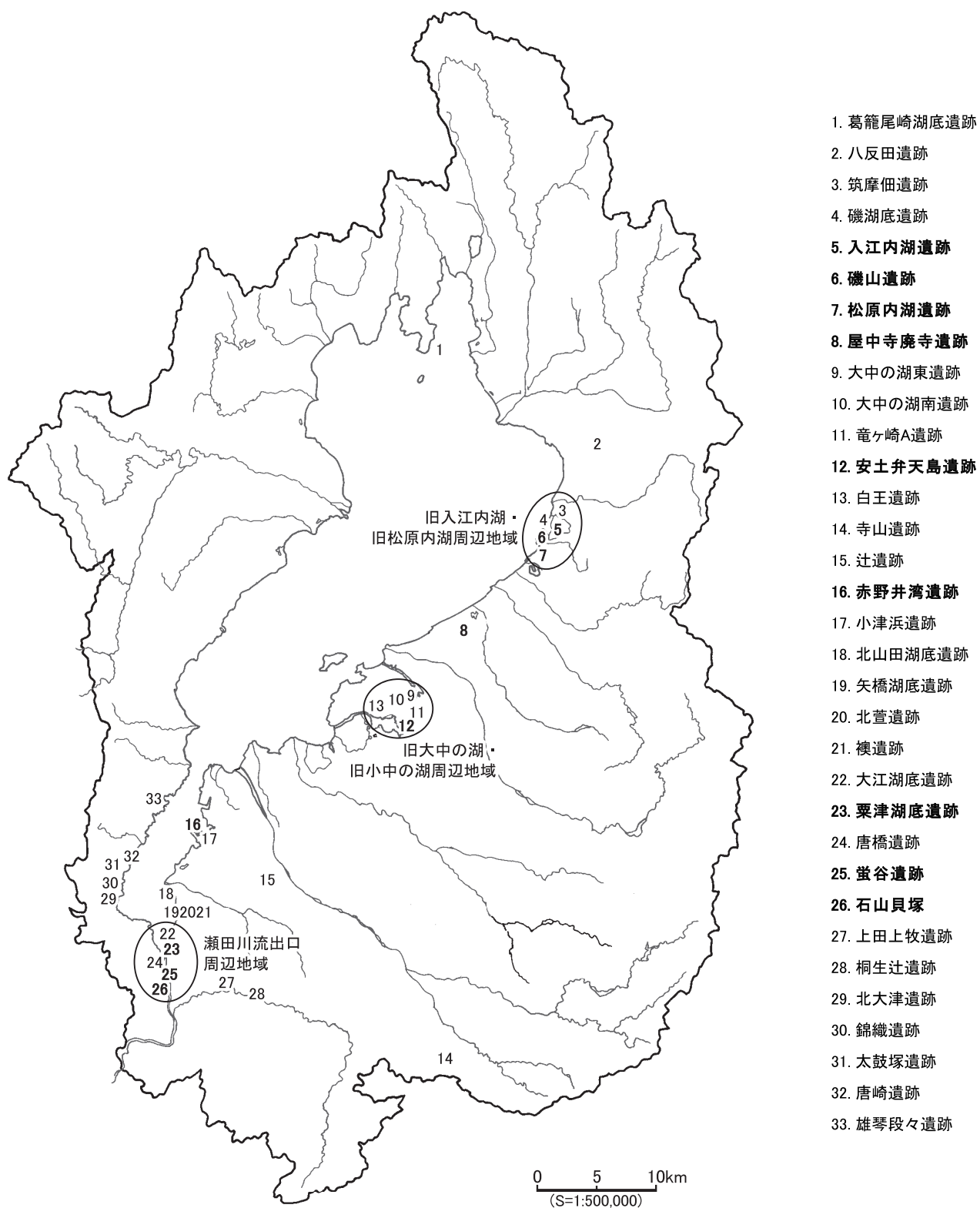


図1 滋賀県縄文時代早期後葉～前期前葉 遺跡分布図

表1 滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	立地	土器型式	特記事項	引用文献
1	葛籠尾崎湖底遺跡	長浜市湖北町尾上	湖岸近接地	粕畑式・表裏条痕土器		(筆者現物確認)
2	八反田遺跡	長浜市八条町	扇状地	上ノ山式		30
3	筑摩佃遺跡	米原市(旧米原町)朝妻筑摩	湖岸近接地	粕畑式・表裏条痕土器		(筆者現物確認)
4	磯湖底遺跡	米原市(旧米原町)磯	湖岸近接地	表裏条痕土器		20
5	入江内湖遺跡	米原市(旧米原町)入江	湖岸近接地	茅山下層式・粕畑式・上ノ山式・入海式・石山式・天神山式・塩屋式・表裏条痕土器	球状耳飾4点	23・24・28
6	磯山遺跡	米原市(旧米原町)磯	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・茅山下層式・ハツ崎Ⅰ式・粕畑式・入海Ⅰ式・入海Ⅱ式・石山式・天神山式・塩屋式・表裏条痕土器・粟津SZ式	埋葬(投棄?)人骨2体、隠島産黒曜石(早期後葉)	34
7	松原内湖遺跡	彦根市松原町	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・茅山下層式・粕畑式・天神山式・塩屋式・木島式	集石土坑6基、土坑(早期後葉)	26・29
8	屋中寺廃寺遺跡	彦根市下岡部町	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台・茅山下層式・ハツ崎Ⅰ式・粕畑式・上ノ山式・入海Ⅱ式・石山式・天神山式・表裏条痕土器		12
9	大中の湖東遺跡	東近江市(旧能登川町)伊庭	湖岸近接地	粕畑式		32
10	大中の湖南遺跡	近江八幡市安土町下豊浦	湖岸近接地	表裏条痕土器		21
11	竜ヶ崎A遺跡	近江八幡市安土町下豊浦	湖岸近接地	粕畑式・入海Ⅰ式・入海Ⅱ式・塩屋式・表裏条痕土器・木島式		22
12	安土弁天島遺跡	近江八幡市安土町下豊浦	湖岸近接地	茅山下層式・茅山上層式・粕畑式・上ノ山式・入海Ⅰ式・入海Ⅱ式・石山式・天神山式・塩屋式・表裏条痕土器・一乗寺南下層類似・表裏縄文土器・木島式	隠岐島産黒曜石・球状耳飾13点	17・31
13	白王遺跡	近江八幡市白王町	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・茅山下層式・石山式・塩屋上層式・粟津SZ式・木島式		19
14	寺山遺跡	甲賀市甲南町新治	氾濫平野	早期後葉(茅山下層式) 早期末～前期初頭(表裏条痕土器・粟津SZ式) 前期前葉(木島式)		5
15	辻遺跡	栗東市辻	扇状地	早期後葉(詳細不明)		35
16	赤野井湾遺跡	守山市赤野井町	湖岸近接地	上ノ山式・入海Ⅰ式・同Ⅱ式・石山式・天神山式・表裏条痕土器・表裏縄文土器・一乗寺南下層類似	集石土坑6基(早期後葉)、球状耳飾1点	9
17	小津浜遺跡	守山市杉江町	湖岸近接地	一乗寺南下層類似		18
18	北山田湖底遺跡	草津市北山田町	湖岸近接地	茅山下層式?・表裏条痕土器		27
19	矢橋湖底遺跡	草津市矢橋町	湖岸近接地	茅山下層式・上ノ山式・粕畑式・入海式・表裏条痕土器・木島式		27
20	北萱遺跡	草津市御倉町	湖岸近接地	石山式・一乗寺南下層類似・木島式		27
21	榎遺跡	草津市御倉町	湖岸近接地	茅山上層式?		4
22	大江湖底遺跡	大津市萱野浦・玉の浦地先	湖岸近接地	表裏条痕土器		25
23	粟津湖底遺跡	大津市晴嵐1地先	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・茅山下層式・ハツ崎Ⅰ式・粕畑式・上ノ山式・石山式・塩屋式・表裏条痕土器・粟津SZ式・一乗寺南下層類似		8・15・16
24	唐橋遺跡	大津市瀬田2	湖岸近接地	入海式・表裏条痕土器・一乗寺南下層類似		11
25	蜚谷遺跡	大津市石山寺1	湖岸近接地	茅山式・石山式・表裏条痕土器・粟津SZ式・一乗寺南下層類似・木島式		10・19
26	石山貝塚	大津市石山寺3	湖岸近接地	茅山下層式・茅山上層式・粕畑式・上ノ山式・入海Ⅰ式・入海Ⅱ式・石山式・表裏条痕土器・粟津SZ式	貝塚・集石土坑・埋葬人骨5体・獣骨・骨鏃・鹿角斧・貝装飾品・骨角製垂飾品	7・33
27	上田上牧遺跡	大津市上田上牧	谷底平野	表裏条痕土器	竪穴建物	14
28	桐生辻遺跡	大津市上桐生	山地・丘陵	茅山下層式?		13
29	北大津遺跡	大津市皇子が丘1・2丁目	湖岸近接地	野島式・茅山下層式		6
30	錦織遺跡	大津市皇子が丘1丁目ほか	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・茅山上層式～粕畑式・表裏条痕土器	土坑	3
31	太鼓塚遺跡	大津市滋賀里1丁目、高砂町	湖岸近接地	鶺鴒ヶ島台式・塩屋式・表裏条痕土器・一乗寺南下層類似		1
32	唐崎遺跡	大津市唐崎1丁目	湖岸近接地	石山式・佐波極楽寺式		25
33	雄琴段々遺跡	大津市雄琴3丁目	湖岸近接地	一乗寺南下層類似		2

や獣肉などの陸産資源も得られた。入江内湖・松原内湖ともに、戦中・戦後の食糧を起因として揚水により干拓が行われ、現在でもおもに耕作地として利用されている。

5 遺跡のうちの 5. 入江内湖遺跡・6. 磯山遺跡・7. 松原内湖遺跡の 3 遺跡は、前述の重要遺跡に該当する。6. 磯山遺跡は、滋賀県における縄文時代早期～前期の代表的な遺跡として知られ、条痕文系土器が比較的多数出土している。条痕文系土器については、筆者も担当した 7. 松原内湖遺跡の近年の発掘調査でも比較的多く出土していて、一部は遺構に伴う。当遺跡は滋賀県内で唯一神子柴系石斧が出土した遺跡でもある。この地域は、現在に至るまでもそうだが、東日本との往来の窓口になる場所であり、東からの来訪者がまず定着した土地と推定される。

なおここは含まれないが、8. 屋中寺廃寺遺跡も湖東流紋岩で構成された独立山塊：荒神山の南麓に立地していて、丘陵と琵琶湖の接点という立地条件が共通する。

②旧大中の湖・旧小中の湖周辺地域

滋賀県中央部の東近江市から近江八幡市にかけて位置する旧大中の湖・旧小中の湖周辺地域には、9. 大中の湖東遺跡～13. 白王遺跡の 5 遺跡が立地する。大中の湖・小中の湖も琵琶湖を代表する内湖であり、観音寺山や安土山といった湖東流紋岩で構成された独立山塊が、愛知川・蛇砂川などの河川が運ぶ土砂の堆積を阻み、形成されたと考えられている。やはり縄文時代は潟地形であり、小中の湖西部の西の湖を除いて、戦中・戦後に揚水により干拓が行われ、現在でもおもに耕地として利用されている。

5 遺跡のうちの 12. 安土弁天島遺跡(2)は、前述の重要遺跡に該当する。小中の湖（弁天内湖）湖底に立地し、1949 年に山内清男博士により発掘調査が行われ、縄文時代早期～前期の土器などが大量に出土した。出土した玦状耳飾は、大陸から渡来した根拠として提示されたことで知られている（山内 1969）。筆者が担当した調査でも、一部は遺構に伴うなどして、玦状耳飾を含む多数の遺物が出土した。

③瀬田川流出口地域

滋賀県南部の大津市に位置する琵琶湖南端部が、その唯一の流出口である瀬田川と接する一帯には、22. 大江湖底遺跡～26. 石山貝塚の 5 遺跡が立地する。琵琶湖南湖の周囲には 16 遺跡と今回集成した遺跡のほぼ半数が位置する。そのうち最も遺跡が集中するのが本地域である。

5 遺跡のうちの 23. 栗津湖底遺跡・25. 蛍谷遺跡・26. 石山貝塚の 3 遺跡は、前述の重要遺跡に該当する。25. 蛍谷遺跡・26. 石山貝塚は伽藍山東麓に立地し、上記 2 地域と立地条件が共通する。しかし、23. 栗津湖底遺跡の周囲に丘陵は見当たらず、16. 赤野井湾遺跡とともに立地条件が異なる。両遺跡とも現在では琵琶湖の湖底に水没していることから、当時の汀線が現在よりも数メートル低く、またおそらく 23. 栗津湖底遺跡近辺では河川状を呈していたであろう。何らかの別の立地要因があると思われる。

26. 石山貝塚は坪井清足氏を中心に行われた発掘調査で豊富な資料が出土したが、出土層位を基にした「石山分類」は、東海条痕文系土器の基本となっている。また、23. 栗津湖底遺跡は、戦後に藤岡謙二郎博士が発見した遺跡だが、本格的な発掘調査は、琵琶湖開発事業に伴って当協会が実施した。この調査で得られた資料を基に、泉拓良氏は「栗津 SZ 群」土器を設定している（泉 1984）。

4. 滋賀県における縄文時代早期末～前期初頭土器

(1) 滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉の流れ

近年の滋賀県および隣接地域での資料増加や、また土器編年研究の深化により、滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉の縄文土器の様相も解明されつつある（岡田 2021、福西 2021a・2021b など）。縄文時代早期と前期の境界をどこに置くのか、という問題は残るとしても、型式学的な編年における前後関係の位置付けについては、各研究者間の認識に大きな違いはないように感じる。

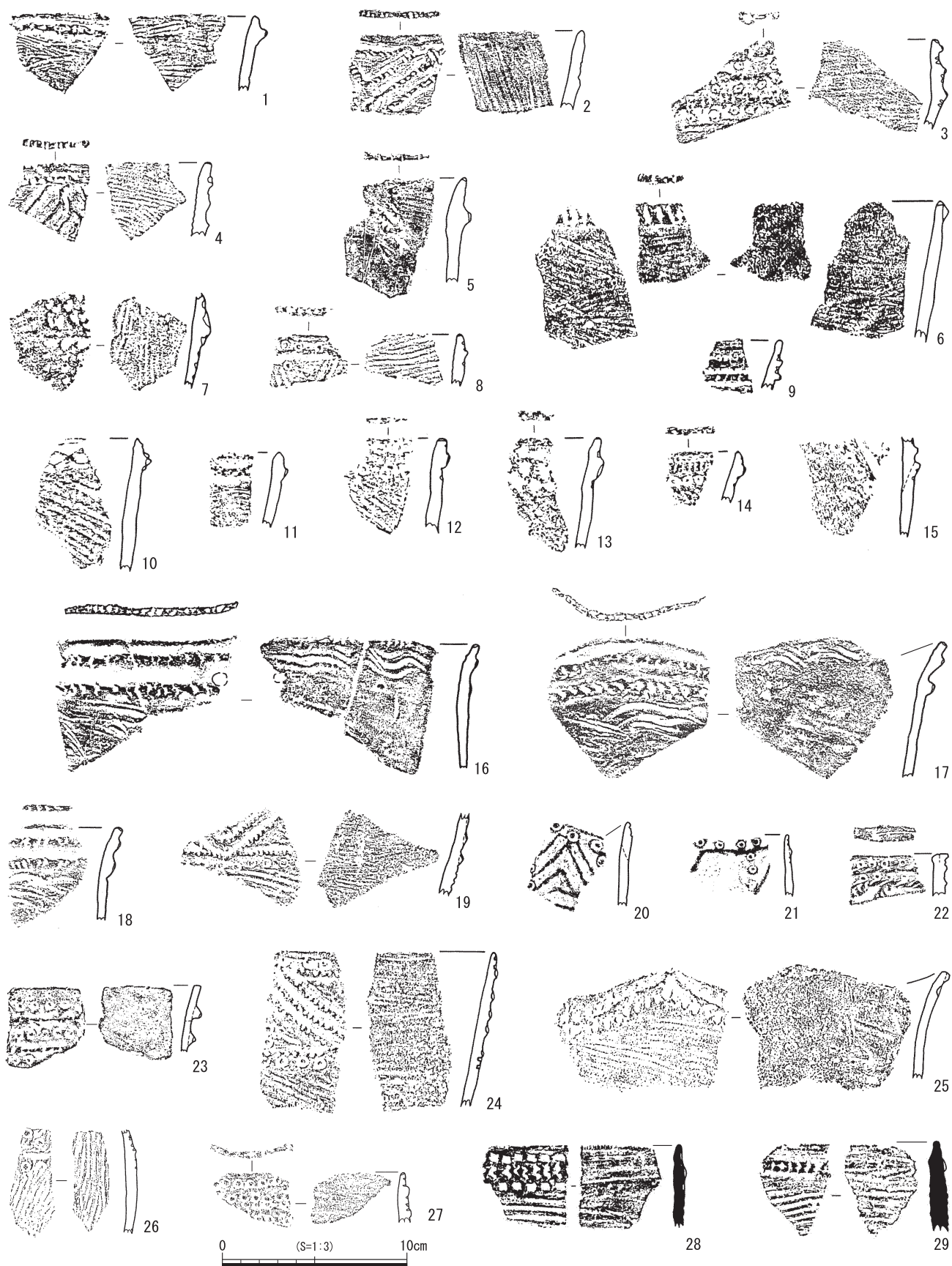
筆者が認識している滋賀県の当該期前後の土器型式の流れは以下の通りである。縄文時代早期中葉：押型文土器は、全般的に資料が少なく不明瞭である。その後に東より条痕文系土器の茅山様式（金子 2008）が流入してくるが、全形のわかる資料は限られる。その後は条痕文系土器が地域変容した東海条痕文系土器の分布圏となる。出土遺跡・出土量が増加し、6. 磯山遺跡や 12. 安土弁天島遺跡・26. 石山貝塚などで豊富な資料が得られている。塩屋式以降は前期と認識されていて、木島式・清水ノ上式へと継続していく。

一方で縄文時代早期末～前期初頭に、内外面にアナダラ属の二枚貝を原体として器面調整を行った土器（これを表裏条痕土器とした）が伴うようになり、初期のものは胎土に少量の繊維を含む。時期が下るにつれて出土量に占める割合は高くなり、一乗寺南地点下層類似資料や栗津 SZ1 群土器の出現を経て、前期中葉の羽島下層Ⅱ式へと続く。ここで、東海系条痕文土器を押し戻して関西地方の北白川下層式土器が主体となるという「揺り戻し」が起きた。

(2) 滋賀県出土の一乗寺南地点下層資料類似資料（図 2）

今回の集成を進める中で、一乗寺南地点下層類似資料が、筆者の認識よりも多くの遺跡で出土していることを知った。いずれも破片で全形を窺えるものはないものの、残存状態が比較的良好な資料を図 2 に示した。12. 安土弁天島遺跡以外は、いずれも南湖周辺に立地する。

これらの資料の特徴は、内外面に条痕調整を施し、文様は口縁外面に施す隆帯の貼付とその刻み、および竹管状工具による円形刺突である。隆帯は微隆帯となることも多く、また刻みのないものも多い。口縁は平縁・波状縁の両方がある。また、本稿の記述に際して各資料を改めて実見してはいないが、安土弁天島遺跡で扱った資料には、胎土に繊維はほとんど含まなかったと記憶している。



1～15：12. 安土弁天島遺跡 16～18：16. 赤野井湾遺跡 19：17. 小津浜遺跡 20～23：20. 北萱遺跡
24・25：23. 栗津湖底遺跡 26・27：25. 蛭谷遺跡 28・29：31. 太鼓塚遺跡

図2 滋賀県出土の一乗寺南地点下層類似資料

編年的には、東海条痕文系土器の「楠廻間（くすばさま）式」（山下 2008）に同様の特徴を持つ資料が伴ったり、また西日本の羽島下層Ⅰ式との関連性も窺えたりすることから、縄文時代早期最終末～前期最初頭の天神山式後半～塩屋式前半あたりと想定される。ただし、当該期の滋賀県を含む東海条痕文系土器の型式設定に依然「揺らぎ」がある（山下 2008・澁谷 2008 など）こともあり、断定し難い。

5. おわりに

筆者が縄文時代早期末～前期初頭に関心を持った契機は、1999 年に安土弁天島遺跡の調査を担当したことである。採用 3 年目に、事業の立ち上げから始まって試掘調査・発掘調査を実施し、その後は内勤に移って整理調査を実施して報告書を刊行した。最初から最後まで自分一人で担当した最初の遺跡であり、またそれが以前から研究対象としてきた縄文時代であったこともあり、思い出深い調査である。

出土した縄文土器は整理用コンテナ 80 箱に及んだが、そのほとんどが胎土に繊維を含んでいるため脆い縄文時代早期の土器か、薄手の縄文時代前期の土器であり、干拓時の水田造成によって大半が細片となっていた。しかし、その 1 点 1 点の破片全てに目を通して分類したことは、当該期の縄文土器を検討する上で非常に役に立つ経験であった。

その後は、入江内湖遺跡（2009・2010 年）や松原内湖遺跡（2014～2016 年）で当該期の資料が出土したものの、安土弁天島遺跡の東に隣接する竜ヶ崎 A 遺跡の調査（2003 年）を担当したこともあり、縄文時代中期後葉～後期前葉の遺跡や縄文土器に興味に移った。そのため、あまり本稿で扱った縄文時代早期末～前期初頭という時期に関心を持つことは少なくなった。今回、改めて縄文時代早期後葉～前期前葉の遺跡を集成したうえで、同早期末～前期初頭の土器について少しだけだが思考を巡らせることができた。

なお、各遺跡の土器型式の認定などに誤りがあるとすれば、それは筆者の各土器型式に対する理解不足から生じた結果であり、筆者に責任がある。ご寛恕願いたい。

〔謝辞〕

筑摩佃遺跡の資料見学に際しては、米原市教育委員会歴史文化財保護課の高橋順之・小野航両氏に大変お世話になりました。文末ながらお礼申し上げます。また、本稿の執筆には、同僚の鈴木康二・福西貴彦両氏との普段からの対話が大変参考になりました。あわせてお礼申し上げます。

註

(1) 京都市左京区に所在する一乗寺向畑町遺跡の南地点（上峯・妹尾編 2014 では南部地区）の下層から出土した資料群である。「一乗寺南地点下層式」とする考え（岡田 2021 など）もあるが、筆者には型式としての認定が可能か不明瞭であるため、このように表現する。

(2) 「安土弁天島遺跡」の正式名称は「弁天島遺跡」である（滋賀県教育委員会 2017）。しかし、山内清男博士が発掘調査を実施した「安土遺跡」と同一遺跡であるという学史的意義を重んじるためと、別遺跡との誤認を招かないために、拙稿ではこの遺跡名を用いることにしている。

参考文献一覧

- 泉 拓良(1984)「遺物」『栗津貝塚湖底遺跡』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
- 上峯篤史・妹尾裕介編(2014)『一乗寺向畑町遺跡出土 縄文時代資料—考察編—』京都大学大学院文学研究科 考古学研究室
- 岡田憲一(2008)「縄文条痕文土器(西日本)」『総覧 縄文土器』小林達夫編 アムプロモーション
- 岡田憲一(2021)「近畿地方の縄文早期末前期初頭土器編年の概要と課題」『本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年 発表要旨集』関西縄文文化研究会
- 金子直行(2008)「条痕文系土器」『総覧 縄文土器』小林達夫編 アムプロモーション
- 関西縄文文化研究会(2021)『2021 年オンライン大会 本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年』
- 小島孝修(1998)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—地域の検討 2. 湖東南部地域—」『紀要』第 11 号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 小島孝修(1999)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—地域の検討 4. 湖西北部地域—」『紀要』第 12 号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 小島孝修(2001)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—地域の検討 6. 湖西南部地域—」『紀要』第 14 号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 小島孝修(2005)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—遺跡集成補遺編 1—」『紀要』第 18 号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 小島孝修(2019)「松原内湖遺跡における縄文時代の再検討—琵琶湖岸における集落動向の一例—」『紀要』第 32 号 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
- 滋賀県教育委員会(2017)『平成 28 年度 滋賀県遺跡地区』
- 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会(2000)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2 栗津湖底遺跡 自然流路(栗津湖底遺跡Ⅲ)』
- 滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会(2014)『農地環境整備事業関係遺跡発掘調査報告書 1 相谷熊原遺跡Ⅰ』
- 澁谷昌彦(2008)「塩屋式・木島式・中越式土器」『総覧 縄文土器』小林達夫編 アムプロモーション
- 瀬口眞司(1998)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—地域の検討 1. 湖東北部地域—」『紀要』第 11 号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 瀬口眞司(1999)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書—地域の検討 3. 湖南地域—」『紀要』第 12 号 財団法人滋賀県

文化財保護協会

瀬口眞司(2000)「近江における縄文社会の展開過程に関する覚書―地域の検討5. 湖北地域―」『紀要』第13号 財団法人滋賀県文化財保護協会

福西貴彦(2021a)「米原市磯山遺跡出土の栗津SZ1群土器について」『滋賀県立大学考古学研究室論集Ⅰ―考古学研究室25周年・中井均先生退職記念―』滋賀県立大学考古学研究室

福西貴彦(2021b)「近畿地方のアカホヤ降下火山灰前後の土器編年―滋賀県の事例を中心に―」『本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年 発表要旨集』関西縄文文化研究会

宮本一夫(1984)「近畿・中国地方における縄文前期初頭の土器細分」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和59年度』京都大学埋蔵文化財研究センター

山内清男(1969)「縄紋草創期の諸問題」『MUSEUM』第224号 東京国立博物館

山下勝年(2008)「東海条痕文系土器」『総覧 縄文土器』小林達夫編 アムプロモーション

横澤 慈(2006)「近畿地方縄文時代早期末～前期初頭の土器編年」『往還する考古学』3 近江貝塚研究会

引用文献一覧（表1に対応）

- 1 大津市教育委員会(1992)『大鼓塚遺跡発掘調査報告書―一般国道161号（西大津バイパス）建設に伴う―』（大津市埋蔵文化財調査報告書(19)）
- 2 同(2000)『雄琴遺跡群発掘調査報告書―雄琴駅周辺土地区画整理事業に伴う―』（大津市埋蔵文化財調査報告書(31)）
- 3 同(2002)「錦織遺跡」『大津市埋蔵文化財調査年報 平成13(2001)年度-Ⅱ』
- 4 草津市教育委員会(2000)『草津川放水路関連 襖遺跡発掘調査報告書1』（草津市文化財調査報告書37）
- 5 甲南町教育委員会(2003)「平成14年度 寺山遺跡発掘調査報告書」『甲南町文化財調査報告書』第6集
- 6 小島孝修(2003)「北大津遺跡出土の縄文土器について-近江地方湖西南部地域における縄文時代の一様相-」『紀要』第16号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 7 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会(1983)『瀬田川浚渫工事に伴う流域分布調査 瀬田川』
- 8 同(1984)『栗津貝塚湖底遺跡』
- 9 同(1990)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書2 赤野井湾遺跡』
- 10 同(1992)『瀬田川浚渫工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 蛭谷遺跡・石山遺跡』
- 11 同(1992)『瀬田川浚渫工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 唐橋遺跡』
- 12 同(1997)『土地改良総合整備関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ-1 屋中寺廃寺』
- 13 同(1998)『大戸川ダム建設に伴う発掘調査報告書 桐生辻遺跡』
- 14 同(1998)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XXV-4 上田上

牧遺跡Ⅱ』

- 15 同(1999)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3 栗津湖底遺跡（栗津湖底遺跡Ⅱ）』
- 16 同(2000)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書4 栗津湖底遺跡 予備調査・南調査区』
- 17 同(2002)『ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書29-5 弁天島遺跡』
- 18 同(2002)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書6 小津浜遺跡』
- 19 同(2002)『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書』
- 20 同(2003)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書7 琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡』
- 21 同(2005)『ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書32-2 芦刈遺跡・大中の湖南遺跡』
- 22 同(2006)『ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書33-1 竜ヶ崎A遺跡』
- 23 同(2007)『一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書1 入江内湖遺跡Ⅰ』
- 24 同(2008)『一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書2 入江内湖遺跡Ⅱ』
- 25 同(2008)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書8 琵琶湖西南部の湖底・湖岸遺跡』
- 26 滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会(2011)『琵琶湖流域下水道事業（東北部浄化センター増設工事）に伴う発掘調査報告書Ⅱ 松原内湖遺跡Ⅱ』
- 27 同(2013)『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書12 琵琶湖東南部草津川地域の湖底・湖岸遺跡』
- 28 同(2015)『一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書3 入江内湖遺跡Ⅲ』
- 29 滋賀県・公益財団法人滋賀県文化財保護協会(2022)『一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書4 松原内湖遺跡』
- 30 長浜市史編さん委員会(1996)『長浜市史 第1巻 湖北の古代』
- 31 奈良文化財研究所(2005)『山内清男考古資料 15 滋賀県安土遺跡資料』
- 32 能登川町教育委員会(1990)『今安楽寺遺跡』（能登川町埋蔵文化財調査報告書第17集）
- 33 平安学園考古学クラブ(1956)『滋賀県石山貝塚研究報告書』
- 34 米原町教育委員会(1984)『磯山城遺跡』（米原町埋蔵文化財調査報告書2）
- 35 栗東町教育委員会・財団法人栗東町文化体育振興事業団(1995)『栗東町埋蔵文化財発掘調査 1994年度年報』

挿図等典拠

図1・表1 小島作成

図2 各引用文献掲載資料をもとに一部改変して小島作成

（こじま たかのぶ：調査課 安土分室長）

ANNUAL BULLETIN
of
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage
Vol.35 2022.3

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages